

平成 30 年度

地域活性化検討専門部会の取組み事項

地 1 -サイン・散策マップの検討・試行

地 2-里山景観づくりの検討・試行

地 3-HP 等による取組み紹介とイベント PR

地 4-グリーンツーリズム

地 5- <地域農産物等の活用> 菜の花プロジェクト

地 6-里山アート制作と展示

地-1 サイン・散策マップの検討・試行

■計画概要

<p>概要・目的</p>	<p>概要</p> <p>・散策等の適切な誘導、地域の紹介、マナーアップなども含めたサインの検討・試行を行う。(里地里山保全利活用専門部会と連携)</p> <p>目的</p> <p>【散策環境の向上】来訪者が快適に散策できたり、目的地へ円滑にたどりつける環境を確保すること</p> <p>【マナーアップ】ゴミのポイ捨てや農地の無断立ち入りなど注意喚起をして、来訪者のマナー向上を促すこと</p> <p>【地場材の活用】黒川地域の竹や樹木などの利活用を促す。</p>	
<p>実施体制、対象者等</p>	<p>担当：麻生区役所、和光大学（制作：和光大学教員と学生）</p> <p>協力：地元農業者、小田急電鉄、セレスモス</p> <p>対象者：黒川地域の来訪者</p>	
<p>実施内容</p>	<p>実施予定日</p>	<p>平成 30 年 11 月 9 日（金）～11 月 18 日（日）</p>
	<p>実施場所</p>	<p>黒川駅から明治大学黒川農場への誘導 <黒川駅～汁守神社～セレスモス～農業用倉庫～広町緑地～明治大学黒川農場></p>
	<p>周知・PR</p>	<p>散策マップの配布（黒川駅、セレスモス、町会回覧等）</p>
	<p>内容</p>	<p>①サインの設置</p> <p>サインの制作に当たっては、里地里山保全利活用専門部会とも連携していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合案内サイン（黒川駅から明治大学黒川農場までの全体マップ） ・誘導サイン（散策ルートの誘導のためのサイン） ・位置サイン（里山アートの紹介サイン） <p>②散策マップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農と環境を活かしたまちづくり」の取り組みの PR や里山アートの設置場所の紹介なども併せて、暫定版の散策マップを配布する。
	<p>予算等</p>	<p>サイン、散策マップの制作費</p>
<p>その他</p>	<p>—</p>	

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 30 年 11 月 9 日 (金) ~11 月 18 日 (日)
	実施場所	黒川駅から明治大学黒川農場への誘導 <黒川駅~セレサモス~農業用倉庫~広町緑地~明治大学黒川農場>
	参加者数	アート鑑賞者：約 1,000 名 (参考：収穫祭来場者 1,557 名、マイクロバス使用者及び、入口カウントより算出)
実施状況 (写真等)	①総合案内 (黒川駅前)	②里山アート作品の紹介
	③誘導・注意喚起サイン (黒川駅前~明治大学黒川農場周辺)	
	④散策ルートマップ (2,000 部)	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	・ 誘導サインは、歩くモチベーションにもなるとの意見があった。	
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検討事項)	・ イベント実施の看板に、来訪者のみならず地元の方も足を止める人が多く見受けられた。 ・ 今後もイベント実施に合わせたサイン設置を検討する。	
その他	-	

地-2 里山景観づくりの検討・試行

■ 計画概要

概要・目的		<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川地域の景観向上や来訪者を楽しませるため、緑地や農地に菜の花等季節の草花を植える「里山の景観づくり」の検討・試行を行う。 <p>目的</p> <p>【散策環境の向上】来訪者が黒川の自然を楽しみながら散策できる景観を形成する。</p> <p>【認知促進】里山環境に適した花景観を創出することで、黒川の新たな魅力として PR し、都市の中で貴重な環境が残っている現状を多くの人に伝える。</p>
実施体制、対象者等		<p>担当：麻生区役所</p> <p>協力：地元農業者等</p> <p>対象者：黒川地域の来訪者</p>
実施内容	実施予定日	収穫祭でのアンケート：平成 30 年 11 月 10 日（土）
	実施場所	黒川海道特別緑地保全地区ほか 黒川地域 アンケート：明治大学黒川農場 本館 1 階会議室
	周知・PR	—
	内容	<p>①アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川への来訪者に黒川の風景に対するアンケートを行う。 <p>②今後について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山の風景と調和した花の景観を形成するため、農作業への影響を考慮しつつ、実施を検討する。
	予算等	アンケート回答者へのノベルティ制作費
その他		—

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 30 年 11 月 10 日 (土)
	実施場所	明治大学黒川農場
	参加者数	約 160 名 (457 件 (1 名 3 つのシールにより投票))
実施状況 (写真等)	<p>平成 30 年 11 月 10 日に開催された明治大学黒川農場収穫祭にて、「あなたの好きな黒川の風景」として、黒川地区の 5 つの風景から好きな風景を選んでもらうアンケートを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会場の様子 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートパネル ・ 黒川の風景を用いたノベルティ <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒川の風景に好感を持っている人が多かった。 ・ 改めて、黒川の風景を認識してもらうことにより、黒川の魅力を PR することができた。 ・ アンケート回答者に配布した「黒川の風景」のポストカードが好評であった。 ・ アンケート結果では、よこやまの道の人気が高く、特に女性からの人気が高かった。 	
評価と今後の進め方等 (専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒川来訪者の黒川の風景に対する印象の傾向を知ることができた。 ・ 今後は、黒川の里山・農地・竹林等の魅力ある風景を区ホームページ等で PR していく。 	
その他	-	

地-3 HP 等による取り組み紹介とイベントPR

■計画概要

<p style="text-align: center;">概要・目的</p>	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農と環境のまちづくりの取り組みを積極的にPRするため、コンテンツやPR媒体の充実 ・ホームページの更新充実、収穫祭時での紹介パネルの作成、各種取り組みでのアンケートを実施 <p>目的</p> <p>【取り組みのPR・情報発信】 「農と環境を活かしたまちづくり」に関連した取り組みのPRや明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会、各専門部会の審議内容などの情報を発信し、市民に周知する。</p> <p>【担い手づくり】 「農と環境を活かしたまちづくり」の取り組みやイベント等の参加募集、実施後の活動報告などを行い、取り組みに賛同し、活動に協力してくれる担い手づくりにつなげる。</p>	
<p>実施体制、対象者等</p>	<p>担当：麻生区役所 アンケート対象者：収穫祭来場者</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">実施内容</p>	<p>実施予定日</p>	<p>収穫祭でのパネル展示・アンケート：平成30年11月10日（土） ホームページ：随時更新</p>
	<p>実施場所</p>	<p>パネル展示・アンケート：明治大学黒川農場 本館1階会議室</p>
	<p>周知・PR</p>	<p>麻生区ホームページ（インターネット）</p>
	<p>内容</p>	<p>①取り組みの紹介とPR 「農と環境を活かしたまちづくり」に関連した取り組みのPRや明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会、各専門部会の審議内容などの情報を発信し、市民に周知する。</p> <p>②イベントの参加募集と活動報告 「農と環境を活かしたまちづくり」に関連したイベント等の参加募集、実施後の活動報告などを行う。</p> <p>③イベントアンケート調査 来場者に向け、農と環境を活かしたまちづくりに関するアンケート調査を行う</p>
	<p>予算等</p>	<p>アンケート印刷費、パネル印刷費</p>
<p>その他</p>	<p>－</p>	

■実施結果

実施概要	実施日時	収穫祭でのパネル展示・アンケート：平成 30 年 11 月 10 日（土） ホームページ：随時更新
	実施場所	パネル展示・アンケート：明治大学黒川農場 本館 1 階会議室
	参加者数	収穫祭アンケート 169 件（昨年 183 件）
実施状況 (写真等)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭におけるパネル展示、アンケートを行った。  <ul style="list-style-type: none"> ・高津ノクティでのパネル展示、区役所ロビー内でのセレサモス出張販売イベントに合わせたパネル展示を行った。  <ul style="list-style-type: none"> ・麻生区ホームページにおいて「農と環境を活かしたまちづくり」として情報を発信した。 	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫体験や料理体験、野菜作り体験、リースづくりなど、体験イベントの開催への要望が多かった。 ・情報発信への要望が見られた。 ・取り組みの継続への要望が見られた。 	
評価と今後の進め方 等（専門部会での検討事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果から、農と環境の取り組みの認知度が 26.0%と、昨年度からほぼ横ばいである。（H29：26.8、H28：22.8%） ・引き続き様々な広報媒体を活用し、取り組みの周知に努める。 	
その他	—	

地-4-1 <グリーンツーリズム>

農場野菜&ブルーベリー収穫体験の実施

■ 計画概要

概要・目的		<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子（子どもは小学生3～6年生）を対象に、黒川地域の散策、収穫体験や座談会を通じて黒川地区の魅力を発見するイベントを実施 <p>目的</p> <p>再び家族で黒川に来てもらいたい、という目的・主題とする。</p> <p>【農体験によるPR】</p> <p>黒川産の野菜や果物のPR。参加者に農業を楽しみ、興味関心を深めてもらい、黒川や農業を身近に感じてもらうきっかけとする。</p> <p>【参加者以外へのPR】</p> <p>子どもに黒川の風景や収穫体験時の絵を描いてもらい、後日セレサモスに張り出すことで、地元やセレサモス来訪者へ周知する。</p>
実施体制、対象者等		<p>担当：麻生区役所</p> <p>協力：明治大学黒川農場、セレサモス、川崎市農業振興センター農地課</p> <p>対象者：川崎市在住・在学の親子（子どもは小学生3～6年生）</p>
実施内容	実施予定日	平成30年7月21日（土）9：00～12：30 9:00 農業用管理倉庫前集合
	実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ブルーベリーの収穫体験：川崎市が借りているブルーベリー畑 野菜の収穫体験・見学：明治大学黒川農場 座談会（アンケート）&子どものお絵かき：明治大学黒川農場
	周知・PR	<ul style="list-style-type: none"> 麻生区ホームページ内での告知 チラシの配布（区役所・市民館・図書館での配架、イオン掲示板、近隣小学校児童への配布など）
	内容	<p>① ブルーベリーの収穫体験</p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市が借りているブルーベリー畑にて、ブルーベリーの収穫体験をしてもらう。 <p>② 野菜の収穫体験・見学</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治大学黒川農場の見学とともに、圃場にて野菜の収穫体験をしてもらう。（主な作物：トマト、ナス、ピーマン、インゲン、バジル） <p>③ 座談会（アンケート調査）</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者に対し、今後の農と環境への効果的な取組み提案の参考とするためのアンケートを行うとともに、子どもに対し、黒川の風景や収穫体験時の絵を描いてもらう。
	予算等	参加費無料
その他		-

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 30 年 7 月 21 日 (土) 9:00~12:30
	実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・ブルーベリーの収穫体験：川崎市が借りているブルーベリー畑 ・野菜の収穫体験・見学：明治大学黒川農場 ・座談会（アンケート）＆子どものお絵かき：明治大学黒川農場
	参加者数	参加者数 14 組 28 人（子ども：14 名、保護者：14 名） 申込者数 111 組 222 人（子ども：111 名、保護者：111 名） ※小学 3~6 年生とその保護者
実施状況 (写真等)	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">9:00 農業用管理倉庫前</div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">9:20 ブルーベリー畑</div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 10:00 明治大学黒川農場到着 ・農場見学 ・野菜の収穫体験 </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 11:00 黒川農場本館 2 階 ・座談会(アンケート記入) ・お絵かき </div> <div style="margin-bottom: 10px;">↓</div> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px;">12:30 セレサモスにて解散</div> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center; margin-top: 10px;">     </div>	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーの野菜売り場で見える野菜と違って、野菜のみずみずしさ、香り、触感を体感しながら収穫できた。 ・普段は野菜が好きではない子どもが、自分の収穫した野菜は食べたいと言っていてよかった。 ・収穫体験をする機会があまりないので、子どもによい経験をさせることができた。 	
評価と今後の進め方 等（専門部会での検討事項）	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫できる量が多く、参加者の満足度が高かった。 ・子どものお絵かきをしたことによって、黒川に再来訪するきっかけを作ることができた。 ・地元農家の畑で収穫体験するなど、地元農家との連携を図る。 	
その他	—	

地-4-2 <グリーンツーリズム>

ダイコンの収穫体験とピクルスづくり

■ 計画概要

概要・目的		概要 ・市民の親子（子どもは小学生）を対象にダイコンの収穫体験と調理体験（ピクルス・ダイコン葉のふりかけ）を実施し、農への興味・関心を深める。
		目的 【農体験のPR】 黒川産の野菜や果物のPR。参加者に農業を楽しみ、興味関心を深めてもらい、黒川や農業を身近に感じてもらうきっかけとする。 対象は川崎市の小学生とその保護者とし、子ども世代と子育て世代（20～40代）へのアピールを行う。
実施体制、対象者等		担当：麻生区役所 協力：地元農業者、明治大学黒川農場 対象者：川崎市在住・在学・在勤の小学生とその保護者（1組2人）
実施内容	実施予定日	平成30年12月22日（土）
	実施場所	収穫体験：黒川地域内の畑 加工・試食：明治大学黒川農場
	周知・PR	・麻生区ホームページ内での告知 ・チラシの配布（区役所・市民館・図書館での配架、イオン掲示板、近隣小学校児童への配布など）
	内容	① ダイコンの収穫体験 ・地元農業者（坂本氏）の畑にて、ダイコンの収穫体験をしてもらう。 ② ピクルスづくり ・明治大学黒川農場にて、小清水客員教授の指導により、加工品（ピクルス・ダイコン葉のふりかけ）づくりを行い、ご飯と一緒に試食してもらう。
	予算等	参加費 400円
その他		

■実施結果


実施概要	実施日時	平成 30 年 12 月 22 日 (土) 9:15~12:15
	実施場所	収穫体験：黒川地域内の畑 加工・試食：明治大学黒川農場
	参加者数	参加者数 13 組 26 人 (子ども：13 名、保護者：13 名) 申込者数 34 組 68 人 (子ども：34 名、保護者：34 名) ※小学生とその保護者
実施状況 (写真等)	<p>9:15 農業用管理倉庫前</p> <p>9:35 収穫体験</p> <p>10:30 黒川農場調理室 ・ピクルスづくり ・ダイコン葉のふりかけづくり</p> <p>11:45 黒川農場本館 2 階 ・試食 ・アンケート記入</p> <p>12:15 黒川農場にて解散</p>	    
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・明治大学の農場に初めて来た。大学内が見ることができてよかった。 ・子どもは、普段あまり野菜を食べないのに、たくさん食べていた。 	
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでは、参加者全員が「満足」と回答し、収穫体験、加工食品づくりともに、参加者の満足度が高かった。 ・引き続き、地元農家との連携を図った取り組みを実施する。 	
その他	-	

地-5 <地域農産物等の活用>菜の花プロジェクト

■ 計画概要

<p style="text-align: center;">概要・目的</p>	<p><u>菜の花プロジェクトの概要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・菜の花プロジェクトは、「農」「地域交流」「循環型資源」を念頭にモデル的な取り組みの1つとして、菜の花を栽培し、その油の利用と、廃油の資源化によるバイオマス資源の地域循環を目指している。 ・平成26年度から明治大学黒川農場の協力により圃場の一部（約2a）にナタネを播種、収穫、菜種油を製造している。平成30年度も継続し、6月収穫、10月に種蒔きを実施。 ・また、製造した菜種油を使用し、麻生区内の店舗と協働開発したクッキーやパンを、明治大学黒川農場収穫祭で販売し、活動のPRを図る。 <p><u>菜の花プロジェクトの目的</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休耕地の活用や里山景観の魅力向上のため ・地元農産物の活用した加工品開発 ・里地里山を活用して資源循環の仕組みを考えていくため 	
<p style="text-align: center;">実施体制、対象者等</p>	<p>主催：明治大学黒川農場、地元農業者、地元店舗、かわさきかえるプロジェクト（市民団体）等 協力：麻生区役所</p>	
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright; text-align: center;">実施内容</p>	<p style="text-align: center;">実施予定日</p>	<p>菜の花の栽培：通年 商品の販売：平成30年11月10日（土） 収穫祭</p>
	<p style="text-align: center;">実施場所</p>	<p>明治大学黒川農場等</p>
	<p style="text-align: center;">周知・PR</p>	<p>収穫祭チラシ、市政だより、町内会回覧等</p>
	<p style="text-align: center;">内容</p>	<p>① 地元店舗と協力し開発した商品（全粒粉クッキーなど）の販売による活動のPR ② 旬の地場野菜を使用した親子料理教室の開催（2回実施） ③ 地域内資源循環への理解を深めるための小学校環境教育プログラム・教材の活用</p>
<p style="text-align: center;">予算等</p>	<p style="text-align: center;">-</p>	
<p style="text-align: center;">その他</p>		

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 30 年度
	実施場所	明治大学黒川農場ほか
	参加者数	—
実施状況 (写真等)	<p>11月10日 収穫祭 クッキー・パン</p> <p>明治大学の収穫祭に合わせ、活動の取り組み状況の報告や地元店舗と協力し開発した商品の販売・PR を実施した。</p>  <p>地産地消の親子料理教室</p> <p>7月は台風の影響を考慮して中止とした。 2月に親子料理教室を実施 (予定)。</p> <p>域内資源循環への理解を深めるための環境教育プログラム・教材の活用</p> <p>小学校環境教育プログラム・教材を活用し、金程小学生で授業を実施した。6月収穫・10月種まき。</p>	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年度の収穫量は約 50kg、搾油量は 15kg。 ・ボランティアは現在約 30 名 	
評価と今後の進め方等 (専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も自立した団体活動を広報協力等で支援する。 	
その他	—	

地-6 里山アート制作と展示【サトヤマアートサンポ 2018】

■ 計画概要

概要・目的		<p>概要 地区内の農と里山環境を活かした里山アート展示を試行的に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アーティストによる作品展示 ・里山アートをめぐるツアー <p>目的 【地場材の活用】黒川地域の竹等を活用した作品を制作する。 【地域の魅力向上】黒川地域の里山にアート作品を展示することで、黒川地域の景観や里山の魅力のPRにつなげる。</p>
実施体制、対象者等		<p>主催：和光大学 制作：和光大学表現学部の学生、卒業生 協力：地元農業者、明治大学、小田急電鉄 事務局：麻生区役所</p>
実施内容	実施予定日	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の展示：11月9日（金）～18日（日） ・ツアー実施：11月10日（土）10：00～11：30頃
	実施場所	黒川駅から明治大学黒川農場の間
	周知・PR	<ul style="list-style-type: none"> ・市政だより、麻生区役所ホームページ内での告知 ・チラシの配布 等
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ①和光大学表現学部の学生の作品 ②里山アートをめぐる散策ツアー
	予算等	製作費
その他		

■実施結果

実施概要	実施日時	平成 30 年 11 月 9 日 (金) ～11 月 18 日 (日)
	実施場所	黒川駅から明治大学黒川農場への誘導 〈黒川駅～セレサモス～農業用倉庫～広町緑地～明治大学黒川農場〉
	参加者数	アート鑑賞者：約 1,000 名 (参考：収穫祭来場者 1,557 名 マイクロバス使用者及び、入口カウントより算出) ツアー参加者 15 名 (昨年度 18 名)
実施状況 (写真等)	<p>●アート作品展示 (合計 11 点)</p>     <p>●サトヤマアートサンポ 2018 ツアー (11/10)</p>  	
主催者や参加者の声 (主な意見、感想)	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩しながらアート鑑賞ができ、とてもよかった。竹やぶの中の作品がとても印象的だった。 ・里山・田んぼと一体化していて面白かった。 	
評価と今後の進め方 等 (専門部会での検討事項)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを 26 人から集めることができ、8 割以上が「大変満足」「ほぼ満足」と回答。 ・地元の子ども会と連携した作品作りや、セレサモスでのアンケート回収など、地域に協力いただいた。 	
その他	—	



基本計画の見直しについて

見直しについて

黒川連携協議会の取り組みについて、
地元農業者、明大、川崎市ともに一定の評価をしている。

全体的な方向性は変更はせず、実施計画レベルでの見直しを行う。

- ・協議会の取り組みを、よりわかりやすく伝える必要がある。
- ・多様な取り組みを包括できる方針設定が必要。



1. 計画の体系をよりシンプルで分かりやすいものとする。

- ・黒川で取り組む多様な主体とさらなる連携を広げる必要がある。



2. 各取り組みの中で多様な連携を進める。

- ・協議会に参加していても、他の部会の取り組みが共有化できていない。



3. 協議会の成果を皆で情報共有するしくみにする。

計画に対する主な意見と見直しの方向性

協議会の推進体制の見直し

① より効果的な推進体制の構築

- ・3つの専門部会の柱は残しつつも、具体的な取り組みはまとめてはどうか。
- ・できるものがあれば、イベント等の取り組みを統合してはどうか。

② 他の部会や団体との連携

- ・収穫体験に参加した人が保全活動に参加するなど、部会を超えた連携が必要。
- ・他の団体が行っている取り組みとも連携できると良い。

③ 明大黒川農場との連携強化

- ・アスパラ以外の連携テーマを見つけたい。
- ・明大と地域の連携をより推進したい。
- ・明大の学生にもっと参加してもらいたい。

④ 効率的な協議会運営

- ・会議やイベント等が増えると、地元の負担が増えてしまう。



協議会やその他団体等との成果の共有化

⑤ 協議会や協議会の取り組みのPRの充実

- ・会議に出席するまで協議会の取り組みを知らなかった。もっとPRが必要。

⑥ 地元主導の取り組みへの支援

- ・地元主導の取り組みを協議会が支援できるとよい。

⑦ 協議会における取り組みと成果の共有化

- ・参加者数や認知度向上などの成果を把握したい。
- ・協議会やその他黒川での取り組みを共有する必要性を感じた。

協議会の推進体制の見直し

① より効果的な推進体制の構築

- ・3つの専門部会の柱は残しつつも、具体的な取り組みはまとめてはどうか。
- ・できるものがあれば、イベント等の取り組みを統合してはどうか。

② 他の部会や団体との連携

- ・収穫体験に参加した人が保全活動に参加するなど、部会を超えた連携が必要。
- ・他の団体が行っている取り組みとも連携できると良い。

③ 明大黒川農場との連携強化

- ・アスパラ以外の連携テーマを見つけたい。
- ・明大と地域の連携をより推進したい。
- ・明大の学生にもっと参加してもらいたい。

④ 効率的な協議会運営

- ・会議やイベント等が増えると、地元の負担が増えてしまう。

協議会やその他団体等との成果の共有化

⑤ 協議会や協議会の取り組みのPRの充実

- ・会議に出席するまで協議会の取り組みを知らなかった。もっとPRが必要。

⑥ 地元主導の取り組みへの支援

- ・地元主導の取り組みを協議会が支援できるとよい。

⑦ 協議会における取り組みと成果の共有化

- ・参加者数や認知度向上などの成果を把握したい。
- ・協議会やその他黒川での取り組みを共有する必要性を感じた。

見直しについて

- ・各専門部会の取り組みが、さらに自立した活動として根付いていけば、統合化なども検討するが、**今回の改訂では、各専門部会の連携を進めることとする。**

- ・**各部会の取り組みの中で**、他の専門部会や団体との連携強化について検討していく。

- ・**各部会の取り組みの中で**、明大との連携強化について検討していく。

- ・協議会立ち上げのため、会議の回数が多かったが、取り組み内容が概ね固まってきたため、取り組み主体の運営とし、**スケジュールを見直す。**

- ・**地域活性化検討専門部会**で協議会のPRを拡充する。

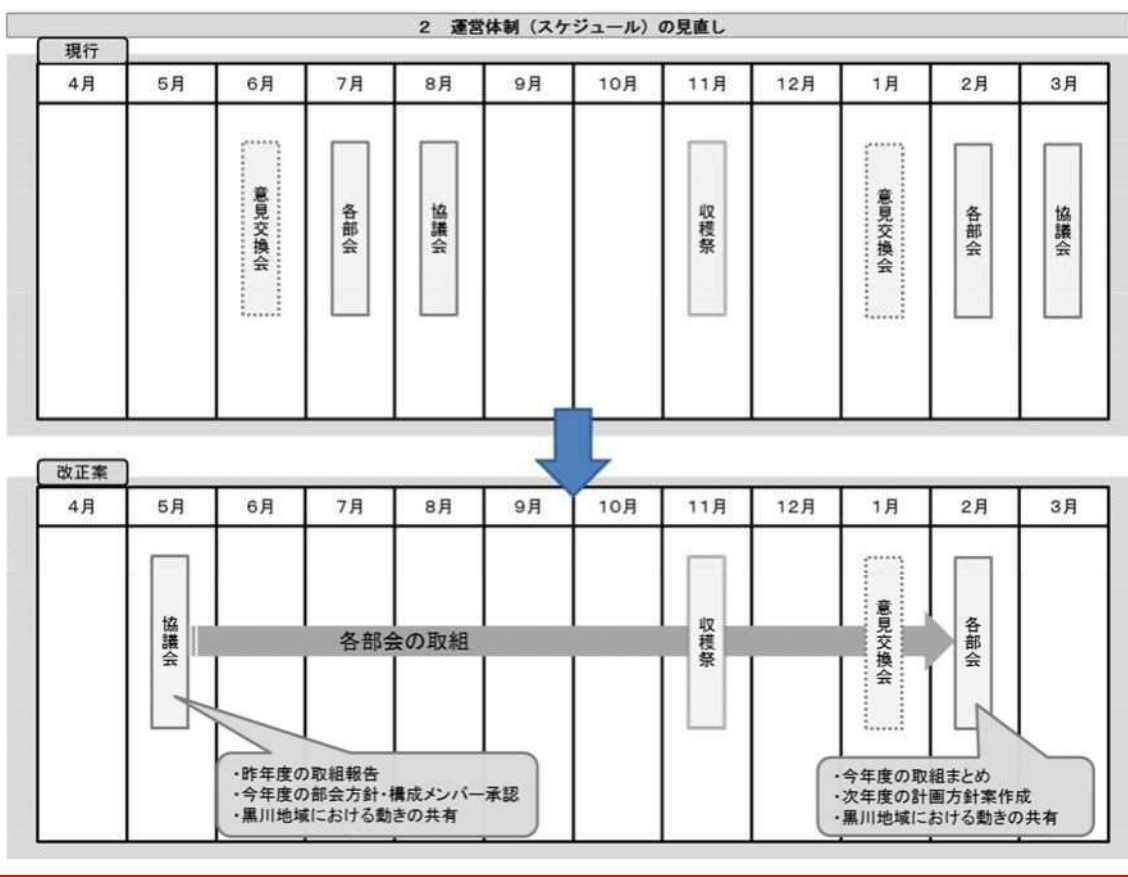
- ・上記⑥の取り組みとして、**地元主導の活動とも積極的に連携し、PR支援**を行う。

- ・各取り組みのイベント参加者数等を取り組み概要で把握できるようにする。
- ・収穫祭で実施する**アンケート**に協議会全体の**取り組み成果が分かる項目を加え、共有**する。

A

B

基本計画に対する主な意見と見直し



農と環境を活かしたまちづくりアンケート（対象：収穫祭参加者）

「農と環境を活かしたまちづくり」の取組についてお伺いします。

現在、川崎市では黒川地域において、地元と明治大学黒川農場を中心に多様な主体が連携した、「農と環境を活かしたまちづくり」を進めており、その中で明治大学黒川農場の収穫祭と連携し、地域で様々な取組を実施しています。

Q6. 平成26年度より農と環境のまちづくりの取組を進めているところですが、ご存じでしたか。（〇はひとつ）

1. 知っていた 2. 知らなかった

Q7. 収穫祭と連携した取組について、お伺いします。
A～Fのうち、知っていた取組はありますか。（〇は項目につきひとつ）
また、それぞれ取組内容について、お伺いします。（〇は項目につきひとつ）

A. 地元野菜の直売 (11/10 収穫祭販売ブースで実施)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

B. 子供向け竹遊び (11/10 農業用倉庫前で実施)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

C. 竹遊遊の展示即売会 (11/10 収穫祭 本館1Fで実施)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

D. 「サトヤアートサンボ2018」 (11/9～11/18 黒川駅～明大農場間で実施)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

E. 「緑と道の美術展in黒川2018」 (11/1～11/30 はるひ野駅～黒川駅間で実施)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

F. 黒山アート散歩ツアー (11/10 黒山 11/11 黒山)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

（各取組の詳細内容は本ブース内のチラシをご覧ください）

Q8. 別の時期に行っている取組について、お伺いします。
G～Iのうち、知っていた取組はありますか。（〇は項目につきひとつ）
また、それぞれ取組内容について、お伺いします。（〇は項目につきひとつ）

G. 明大農場野菜の収穫体験 (7月)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

H. 野菜収穫体験とどろみ作り (12月)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

I. 黒山保全活動体験（草刈り・竹伐り） (2月)

1. 知っていた 2. 知らなかった 3. 興味がある 4. 興味なし

Q9. 今後の取組でやってほしい、やめてほしい、などのご意見があれば教えてください。

アンケートはご協力ありがとうございます。

最後にあなたご自身のことについて伺います。

F1. あなたの性別。（〇はひとつ）

1. 男性 2. 女性

F2. あなたの年齢。（〇はひとつ）

1. 10～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳
4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳
7. 70歳以上

F3. あなたの現在のお住まいはどちらですか。（〇はひとつ）

川崎市内 1. 鶴見区 2. 多摩区 3. 宮前区 4. 高津区
5. 中原区 6. 幸区 7. 川崎区
横浜市内 8. 青葉区 9. 都筑区 10. その他（具体的に：）
東京都内 11. 町田市 12. 多摩市 13. 稲城市 14. 調布市
15. その他（具体的に：）
その他の地域（具体的に：）

F4. 本日は、どなたと一緒に来られましたか。（〇はひとつ）

1. 家族と 2. 友人と 3. 職場の間者と 4. 学校関係者と 5. ひとり
6. その他（具体的に：）

F5. どのような交通手段で来られましたか。（〇はひとつ）

1. 自家用車 2. バス 3. 電車 4. 徒歩
5. その他（具体的に：）

F6. SNSを利用していますか。（〇はひとつ）

1. 利用している 2. 利用していない

利用している場合は、使用しているサービスを教えてください。（〇はひとつでも）

1. Facebook 2. Instagram 3. Twitter
その他（ ）

F7. 川崎市では「かわさきイベントアプリ」により、川崎市内のイベント情報を一括して発信していますが、ご利用されていますか。（詳しく内容は本ブース内のチラシをご覧ください）

1. 利用している
2. 利用していないが、利用してみたい
3. 利用していない
4. その他（ ）

- 加える項目（案）**
- ・黒川の好感度
 - ・協議会の認知度
 - ・黒川産農作物の知名度
 - ・セレサモス利用頻度
 - ・黒川の風景ツウィッターの認知度・利用頻度 等

7

実施計画

(平成27年度作成)
(平成28年度より本稿実施)

1. 実施計画と平成30年度の取り組み(予定)

基本計画の実施方針に基づき、平成30年度の取り組みについて、以下の事項を定めています。

実施方針	具体化の考え方	No.	取り組み項目	概要	H28	H29	H30
地元農産物の販売促進と加工品の開発	新規農産物や郷土農産物栽培の推進	農1	大学と農家の意見交換会	大学と地元農業者の相互の取組みに関する情報交換を行い、今後の黒川地域の野菜づくりへの連携につなげる。	○	○	○
		農2	アスパラガスの新たな栽培方法「採りつき栽培」の実施(地域連帯による農業者への研修)	新規ホーラーを使用し、3月定植、育苗に一体で採りつき「採りつき栽培」の展示研修を行う。栽培講習会を行うなどし、新たな特産物・収穫体験としての可能性を検討する。	○	○	○
		農3	農産物に関する講習会	病虫害対策等に関する、農産物栽培に役立つ講習会を、大学と連携して開催する。	○	○	○
	農産物等研究部門部会	農4	地元農業者との農産加工品等に関する検討	地元農業者等を対象に、農産加工品開発及び販売に向け、意見交換会や講習会等を行う。	○	○	○
		農5	黒川野菜・果物のPR(黒川による黒川野菜の産地の実施)	明治大学黒川農産物の収穫祭等で、地元農業者が連携して野菜を販売し、黒川産の農産物のPRを行う。	○	○	○
農や地域環境を体感するイベント・PR	黒川地域の認知促進	地1	サイン・散策マップの検討・試行	取組みの適切な誘導、地域の紹介、マナーアップなども念めたサインの検討・試行を行う。(里山保全活用専門部会と連携)	○	○	○
		地2	里山景観づくりの検討・試行	黒川地域の景観向上や来訪者を楽しませるため、緑地や農地に菜の花等季節の花を植える「里山の景観づくり」の検討を行う。	○	○	○
		地3	HP等による取組み紹介とイベントPR	農と連携のまちづくりの取組みを積極的にPRするため、コンテンツやPR媒体の充実を行う。	○	○	○
	地域活性化検討専門部会	地4	グリーンツーリズム	【野菜の収穫体験】市民の方を対象に野菜の収穫体験を実施し、植え付けから収穫・調理までを通して活動できるイベントにする。	○	○	○
		地5	新たな魅力の発見・創造	【里山アートサンボ】地域内の農と里山環境を活かした里山アート展示を実施。アーティストによる作品展示・里山アートをめぐるツアー	○	○	○
		地6	里山アート制作と展示	【里山アートサンボ】地域内の農と里山環境を活かした里山アート展示を実施。アーティストによる作品展示・里山アートをめぐるツアー	○	○	○
里山の保全管理や活用	里1	<里山の利活用> 竹あんどんづくり	黒川地域の緑地の竹を活用し、地元小学生とともに、竹あんどんづくりを実施。将来的に地域のお祭りやイベント利用も想定	○	○	○	
	里2	<里山の保全管理> 里山保全活動体験	里山での保全活動体験(取組みや竹伐りなど)を行い、里山の保全活動の担い手づくりにつなげるイベントを検討。	○	○	○	

実施計画の見直しについて

2. 平成28年度以降の進め方

平成27年度に作成した「実施計画」に基づき実施していきますが、具体的な取り組みは、毎年の成果を踏まえ、毎年設定します。また、おおむね3年程度を目途に、必要に応じて基本計画の内容についても適宜修正します。

H26	H27	H28	H29	H30
作成	作成	実施計画に基づく取り組み	実施計画に基づく取り組み	実施計画に基づく取り組み
基本計画の作成	実施計画の作成	取組年度の確認 実施 まとめ分析評価	取組年度の確認 実施 まとめ分析評価	取組年度の確認 実施 まとめ分析評価

8

計画に対する主な意見と見直し(案)

① 農産物等の地産地消

現行計画の項目	専門部会での主な意見	見直しの考え方	見直し(案)	
新規農産物や郷土農産物栽培	農1 大学と農家の意見交換会の開催	・農産物部会のメンバーだけでなく、協議会全体で行った方が有効だ。	・部会で明大と連携した講座等を企画し、広く参加を呼び掛ける。	発展 N農1 大学と連携した意見交換会・講座の開催
	農2 アスパラガスの新たな栽培方法「採りつき栽培」の実施	・アスパラガスの生産体制の拡充と販路拡大が必要だ。 ・ブランド化を進めたい。	・病虫害対策など栽培技術の向上を目指す。 ・アスパラ以外の農産物栽培の可能性も検討する。	継続 N農2 栽培技術の向上に向けた取組の検討・実施
	農3 農産物に関する講習会の開催	・アスパラガスの講習会は、農2に統合してよい。 ・アスパラ以外も検討したい。 ・高齢化等の課題がある。	・栽培技術の向上に必要な講習会を検討する。 ・多様な検討・取組みで、農業活性化を進める。	継続
農産物の加工品開発	農4 地元農業者との農産加工品等に関する検討	・余った野菜や直売に出せない野菜を活用したい。 ・農家が加工所を設置するのは難しい。 ・委託加工も考えられる。	・農産物だけでなく、加工品のPRも力を入れる。 ・地域活性化検討専門部会等との連携を進める。	統合 N農3 地域イベント等を通じた黒川産農産物の知名度の向上
	農5 黒川野菜・果物のPR	・収穫祭で黒川野菜のPRをして、後日、セサモスに再来訪してもらえるようにしたい。	・収穫祭での販売のほか、黒川農場等と連携してPRする。	継続 N農4 収穫祭等における黒川産農産物のPR

実施方針農1
農産物等の栽培技術、
環境の向上実施方針農2
黒川産農産物の知名度向上
とPRの推進

計画に対する主な意見と見直し（案）

② 農と里山体験・地域交流

	現行計画の項目	専門部会での主な意見	見直しの考え方	見直し（案）		
農と里山の認知促進	地1 サイン・散策マップの検討・試行	・これまでどおりイベント時に配布・掲示する。 ・地元、来街者から設置要望があるか把握する。	・常設ではなく、イベント時にマップなどを配布・掲示。 ・マナーについては、情報発信にありわせて啓発する。	発展 統合	N地1 黒川里山の風景のPR	実施方針 地1 黒川の魅力情報の発信
	地2 里山景観づくりの検討・試行	・花だけでなく、農作物が広がる景観も地域の景観としてPRできる。	・黒川の四季を通じた見所などを区のHPやツイッター、パネル等で発信する。		N地2 協議会の取り組みやイベントのPR	
	地3 HP等による取り組み紹介とイベントPR	・協議会のPRの拡充や、地域で情報を共有する必要がある。 ・協議会以外でも様々な団体等がイベントを実施。	・協議会と各部会の取り組みのPRを拡充する。 ・他の黒川地域イベントとの広域連携を行う。	継続		
農と里山の体感	地4 グリーンツーリズム	・大学も場所と講師を継続して協力できる。	・地元農家や大学と連携した収穫体験を実施。	発展	N地3 グリーンツーリズムの実施	実施方針 地2 農と里山を体感するイベントによる地域連携強化
地域資源の発見・創造	地5 地域農産物等の活用「菜の花プロジェクト」	・当該団体の活動が自立した。	・今後も広報等の支援を行う。	統合		
	地6 里山アート制作と展示	・黒川のPRにつながった。 ・同時期に地元発案の取り組みも盛況。	・今後は地元主催アートイベントとの連携を強化。 ・広報協力等を実施。	継続・発展	N地4 地元主催アートイベントへの協力	

計画に対する主な意見と見直し（案）

③ 里山の保全と活用

	現行計画の項目	専門部会での主な意見	見直しの考え方	見直し（案）		
里地里山の体験・利活用	里1 里山の利活用 竹あんどんづくり	・会員の技術が向上し、竹行燈だけでなく、他にも制作が可能。 ・WS参加者も、増やせる。 ・作業の拠点がほしい。	・竹の活用方法を広げる。 ・参加者が増えるよう、広報を充実させる。	継続・発展	N里1 竹を使ったワークショップの実施	実施方針 里1 里山資源の活用推進
里地里山の保全活用	里2 里山保全活動体験	・市民や企業のボランティアを活用した管理を実施できるとよい。 ・参加者をもっと増やしたい。	・黒川周辺の企業や団体との連携を広げる。 ・明治大学と連携した実施方法を検討する。	継続・発展	N里2 里山の保全活動体験イベントの実施	実施方針 里2 里山の保全活動体験の推進

平成31年度の 具体的な取り組み（案） について

平成31年度 地域活性化検討専門部会の取り組み（案）

基本方針	実施方針	No.	取り組み項目
農と里山 体験・ 地域交流 地域活性化 検討専門部会	黒川の魅力 情報の発信	地1	黒川里山の風景のPR
		地2	協議会の取り組みや イベントのPR
	農と里山を 体感するイベ ントによる地 域連携強化	地3	グリーンツーリズム の実施
		地4	地元主催アート イベントへの協力

地1：黒川里山の風景のPR

目的 里山の四季の風景をより多くの人に楽しんでもらう。

内容 麻生区のホームページやツイッター、また、街中でのポスター掲示等を通じて、魅力ある里山風景を発信する。

実施箇所 ー

実施体制 担当：企画課



スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
← ----- ポスター掲示・SNS等による情報発信 ----- →											

地2：協議会の取り組みやイベントのPR

目的 協議会と、協議会の取り組みをより多くの人に発信する。

内容 部会連携を強化し、協議会の取り組みや成果を麻生区HP等で紹介。また、協議会以外の黒川地域イベントとの広報連携を行う。

実施箇所 ー

実施体制 担当：企画課



スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
← ----- HP等による情報発信 ----- →											

地3 : グリーンツーリズムの実施

目的 黒川の魅力を体感してもらい、再来訪のきっかけをつくる。

内容 市民を対象に、明治大学や地元農家と連携した収穫体験を開催。

実施箇所 黒川地域

実施体制 担当：企画課、地元農業者、明治大学
 協力：農地課、JAセレサ川崎
 対象：市民



スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			イベント ○					イベント ○			

地4 : 地元主催アートイベントへの協力

目的 農と里山を体感するイベントを応援し、活動を活性化する。

内容 地元主催のアートイベント「緑と道の美術展in黒川」の広報協力（チラシやパンフの配架やHP掲載、パネル展示等）を行う。

実施箇所 黒川・はるひ野地域

実施体制 主催：黒川緑地管理協議会他
 協力：企画課、みどりの協働推進課他



スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
							美術展 ○				
						← ----- →					
						広報連携					

黒川地域 農と環境を活かしたまちづくり 概要説明書 H31.3(案)

基本計画

(平成26年度作成)
(平成30年度一部改定)

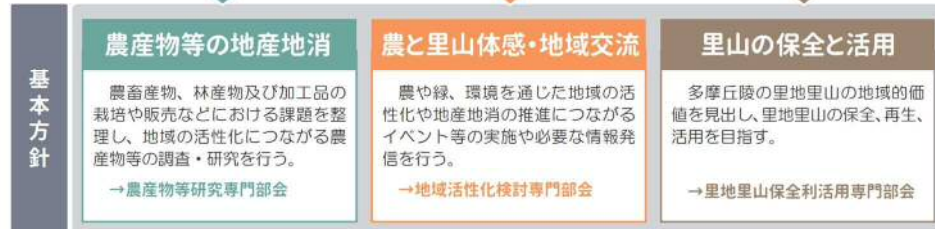
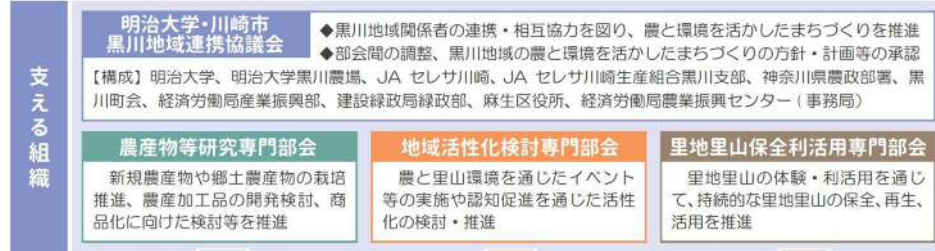
1. 農と環境を活かしたまちづくりの目的

川崎市麻生区黒川地域は、豊かな緑と農地が残された里地里山の面影を残す地域です。しかしながら、良好な環境を持続的に維持保全していくためには、農・緑・地域等に関して様々な課題があります。

そのため、本取り組みは、この地域が抱える課題を解決しながら活力ある地域としていくため、農業者・地域住民・大学・行政等が連携し、農と環境を活かしたまちづくりを進めることを目的としています。

2. 推進体制と目標、実施方針

多様な担い手からなる「明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会」を中心に、3つの方向性を持った「専門部会（農産物等研究専門部会・地域活性化検討専門部会・里地里山保全活用専門部会）」を立上げ、各専門部会において様々な取り組みを試行し、検証の上、継続的に実施していく取り組み内容を検討していきます。



実施計画

(平成27年度作成)
(毎年改定)

1. 実施計画と平成31年度の取り組み(予定)

基本方針に基づき、平成31年度の取り組みについて、以下の事項を定めています。

基本方針	実施方針	No.	取り組み項目	概要	H31
農産物等の地産地消 農産物等研究専門部会	農産物等の栽培技術、営農環境の向上	農1	大学と連携した意見交換会、講座の開催	目的: 明治大学の先端技術やノウハウを活用した農業活性化。 内容: 大学の研究成果等を共有できるよう、地元農業者が参加できる意見交換会や講座を開催する。	○
		農2	栽培技術の向上に向けた取組の検討・実施	目的: 大学等と連携し、栽培技術の向上を図る。 内容: 農産物の栽培方法等に関する勉強会や研修会等を開催し、黒川における栽培技術の向上を図る。	○
	黒川の農産物の知名度向上とPRの推進	農3	地域イベント等を通じた黒川産農産物の知名度の向上	目的: 地域イベント等を通じ、黒川産農産物の知名度向上を図る。 内容: 黒川の農産物を身近に親しんでもらえるよう、黒川地域で行われるイベント等を通じ、知名度向上を図る。	○
		農4	収穫祭等における黒川産農産物のPR	目的: 販売会を通じて黒川産農産物のファンを増やす。 内容: 明治大学等と連携しながら、黒川産農産物をPRする。	○
農と里山体感・地域交流 地域活性化検討専門部会	黒川の魅力情報の発信	地1	黒川里山の風景のPR	目的: 里山の四季の風景をより多くの人に楽しんでもらう。 内容: 麻生区のホームページやツイッター、また、街中のポスター掲示等を通じて、魅力ある里山風景を発信する。	○
		地2	協議会の取り組みやイベントのPR	目的: 協議会と、協議会の取り組みをより多くの人に発信する。 内容: 部会連携を強化し、協議会の取り組みや成果を麻生区HP等で紹介。	○
	農と里山を体感するイベントによる地域連携強化	地3	グリーンツーリズムの実施	目的: 黒川の魅力を体感してもらい、再来訪のきっかけをつくる。 内容: 市民を対象に、明治大学や地元農家と連携した収穫体験を開催。	○
		地4	地元主催アートイベントへの協力	目的: 農と里山を体感するイベントを応援し、活動を活性化させる。 内容: 地元主催のアートイベント「線と道の美術展in黒川」の広報協力(チラシやパンフの配架やHP掲載、パネル展示等)を行う。	○
里山の保全と活用 里地里山保全活用専門部会	里山の体験・利活用	里1	竹を使ったワークショップの実施	目的: 竹林の整備の発生材活用と竹林管理の意識啓発を行う。 内容: 地元小学生とともに、竹林から竹を伐り出すところから始める竹を使ったワークショップ(竹あんどん等)を開催。	○
		里2	里山の保全活動体験イベントの実施	目的: 体験を通じた、新たな保全活動の担い手の発掘。 内容: 黒川周辺の団体などに呼びかけを行い、多様な連携を図りながら里山保全活動体験を実施する。	○

2. 平成31年度以降の進め方

平成31年度に作成した「実施計画」に基づき実施していきますが、具体的な取り組みは、毎年の成果を踏まえ、毎年設定します。また、おおむね3年程度を目途に、必要に応じて基本計画の内容についても適宜修正します。

